

ESSDで世界をかえる！

日本ESSD学会副会長

手島 利夫

令和の時代を迎えた今、従来の正解を教える教育から「正解を探す教育」へと、日本の学校教育は大きく変わろうとしています。

「皆さんが育ち、活躍されたいです。皆さんが育ち、活躍されてきた古い時代の教育観は、平成の時代に脱ぎ捨ててきましたか。もう通用しませんよ」

昭和は大量生産・大量消費の工業社会(Society3.0)、平成は求められる知識が急増した情報化社会(Society4.0)であったならば、令和は持続可能な世界の実現を目指して価値を生み出す教育が求められる創造化社会(Society5.0)の幕開けです。

教育委員会の教育長や校長先生方に伺

「基礎的・基本的な知識や理解等の学力が必要ないと言っているではありません。ただそれを身に付けさせただけではなく通用しない時代や世界になっていますよ。そのような「世界に通用しない、時代遅れの日本の子ども」をまだ大量に育ててどうするつもりなんですか。これからどのような時代が始まるの

か、その時代を生き抜くためにどのような子どもたちを育てるのが全ての出発点です。それには、どのような学びのあり方が必要なのか、そのためにどのような学校や教育課程を作っていくのか、「教師」という呼び方も仕事の中身も大きく変えていかないとけません。それを指導できなかつたら、令和の時代にあなた方の存在価値はありませんよ。また、「学校」「教育委員会」そのものが無用の長物となるような気がします。このあたりのことについて学習指導要

領にはどのように書かれているでしょうか。上記のような問題意識をもった上で前文や総則をもう一度読み直してみましよう。次に、これを具体化するには……退職後からこのような講演やワークショップをさせていただけの機会が増えました。昨年は関係省庁、関係機関、教育委員会、企業、大学から小学校まで、依頼が数十件ありました。執筆のご依頼も入ります。校長時代の13年間の実践と理念をまとめた著書『学校発・ESSDの学習』が、カリキュラム・マネジメントや



主体的・対話的で深い学びといった学習指導要領改訂の内容や時代の要請と一致しているためでしょうか。

再任用校長職が終わる頃に、幸せなことに新採教員の指導などへのお誘いもいただきました。しかし、「自分の子どもたちや教え子たちが安心して生きていける持続可能な世界づくりのために、教育で世界に貢献したい」という夢があり、そのためには時間や身分上の制約がないことも重要と考え、安定した収入の道を絶ちました。でも、様々な方と教育の今と未来を語る機会や、家内と一緒に過ごせる多くの時間をいただきました。この幸せを大事にし、ライフワークを進めたいと思っています。

(前江東区立八名川小学校長。ESSD・SDGsを推進する手島利夫の研究室
 || <https://www.esd-teijima.com/>)